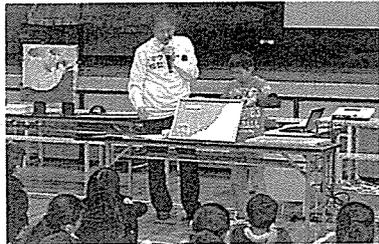


小学生に建設業の役割解説

戦略的広報
推進協

建設産業の社会的役割を工業高校以外の生徒・児童たちにも広く知ってもらおうと、官民協働の新たな試み（小中学校キャラバン）が始動した。国土交通省が建設業団体などと組織する建設産業戦略的広報推進協議会は26日、小学生向けの初の体験学習をさいたま市岩槻区の市立新和小学校で行った。6年生27人が参加。9月の関東・東北豪雨の体験談を聞いた児童からは「被災地に出動した建設業関係者はどれくらいですか」と、地域を縁の下で支える大人の仕事に関心を寄せる声が上がった。

と再び、松縄氏と藤井氏。26日の市立新和小学校で、松縄氏と藤井氏が、土砂災害の被害に直接巻き込まれた経験をもとに、建設業が地域の安全・安心の確保などにどう貢献しているのかを、質問を受ける。松縄氏は、土砂災害の被害に直接巻き込まれた経験をもとに、建設業が地域の安全・安心の確保などにどう貢献しているのかを、質問を受ける。松縄氏は、土砂災害の被害に直接巻き込まれた経験をもとに、建設業が地域の安全・安心の確保などにどう貢献しているのかを、質問を受ける。



体験学習では、官民それぞれの立場で建設業に携わる専門家が小中学校に直接赴き、授業を実施する。建設業が地域の安全・安心の確保などにどう貢献しているのかを、質問を受ける。松縄氏は、土砂災害の被害に直接巻き込まれた経験をもとに、建設業が地域の安全・安心の確保などにどう貢献しているのかを、質問を受ける。

さいたま市でキャラバン 地域支える大人の仕事に関心

ンター人材育成支援課の松縄修主任。松縄氏は、建設会社はものををつくるだけでなく、降雪時には道路の除雪作業に従事することなども伝えた。

土木学会を代表して講師を務めた藤井俊逸藤井基礎設計事務所専務は「今回の体験学習で得た知識を家族や友人にも伝え、土砂災害に対する正しい知識を広めてもらいたい」と強調。土砂崩れの種類や発生メカニズム、その対策工法の考えなどを模型実験を通じて丁寧に説明していた。

児童たちは、今年の修学旅行で栃木県日光市へ行った経験を基に、途中で通った高速道路や、山間部にあった砂防堰堤などの役割について、自分の考えも発表した。国土省関東地方整備局建設部の下岡壽建設産業調整官は「自分たちが住んでいる地域にどんなものがあるのかをよく観察し、その役割を考えるきっかけにしてください」と呼び掛けた。

児童たちは、今年の修学旅行で栃木県日光市へ行った経験を基に、途中で通った高速道路や、山間部にあった砂防堰堤などの役割について、自分の考えも発表した。

児童たちは、今年の修学旅行で栃木県日光市へ行った経験を基に、途中で通った高速道路や、山間部にあった砂防堰堤などの役割について、自分の考えも発表した。